

さがみはら SDGs パートナー



株式会社東部は「相模原市 SDGs パートナー」として 2021 年 9 月 1 日に登録されました。これにより、株式会社東部は SDGs 達成に向けた具体的な取組みの促進、企業価値向上及び競争力の強化、そして、新たな事業機会の創出に繋げることを目的に、相模原市が進める「さがみはら SDGs」を推進し、サステナブルな社会環境の創出に貢献します。

サステナブルな社会へ貢献!



さがみはら SDGs パートナー

つねに時代の先へ新技術と新発想でお応えいたします!

SDGs の取り組み

- ・ 新人研修、資格取得支援等で、ひとり一人の成長と向上に繋げる。
- ・ 基礎杭メーカーとして更なる技術革新に向けた試験研究開発の取組。
- ・ 生活基盤となる基礎建設工事を通し皆様へ安全・安心を提供する。
- ・ 基礎建設に関わる公的評価、認定工法・製品の開発と利用。
- ・ 「3R」や環境に配慮した独自のエコマーク製品の開発・使用の実施。
- ・ 女性活躍（産休・産後の再雇用）と高齢者の活躍（定年後の再雇用、委託）。
- ・ HP・販促資料等で SDGs の普及啓発に努める。



e-pile next

国土交通省大臣認定工法

公共土木・公共建築での活用拡大 国土交通省「NETIS」

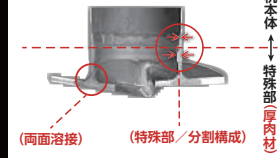
- 登録番号：KT-160071-A
- 国土交通大臣認定
 - TACP-0483 砂質地盤(礫質地盤含む)
 - TACP-0484 粘土質地盤
- 日本建築センター
 - BCJ評定-FD0540-01 砂質地盤
 - BCJ評定-FD0541-01 礫質地盤
 - BCJ評定-FD0542-01 粘土質地盤
- 基礎評定(引抜支持力)
 - 砂質地盤
 - 礫質地盤
 - 粘土質地盤
- 日本環境協会
 - エコマーク認定 08 131022号

全ての鍵は杭先端にあり

杭基礎は建物荷重を支持地盤へ伝達させる最も重要な役割であり、故に、杭先端拡翼部の貫入(掘削)性、変位・変形・破断などを発生させない高い性能が要求されます。

- 貫入性の問題を・・・「**変型穴**」により解決しました。
- 拡翼変形の問題を・・・「**特殊部**」により解決しました。
- コストの問題を・・・「**自社施工**」により解決しました。

■ 高力構造 / 拡翼断面図



■ FEM解析図



建築・土木・鉄道、さまざまな場面で活躍しております。

検索 e-pile



小学校休業等対応助成金が再開されました

令和3年8月1日から同年12月31日までの間に、以下の子どもの世話を保護者として行うことが必要となった労働者に対し、**有給（賃金全額支給）の休暇（労働基準法上の年次有給休暇を除く）**を取得させた事業主を支援します。

1. 新型コロナウイルス感染症に関する対応として、ガイドラインなどにに基づき、臨時休業などを行った小学校など（保育所等を含みます）に通う子ども。
 2. 新型コロナウイルスに感染した子どもなど、小学校などを休む必要がある子ども。
- 事業主の皆さまには、この助成金を活用して有給の休暇制度を設けていただき、年休の有無にかかわらず利用できるようにすることで、保護者が希望に応じて休暇を取得できる環境を整えていただければ幸いです。

助成内容

有給休暇を取得した対象労働者に支払った賃金相当額×10/10

具体的には、対象労働者1人につき、対象労働者の日額換算賃金額×有給休暇の日数で算出した合計額を支給します。
 ※各対象労働者の通常の賃金を日額換算したもの（日額上限：13,500円(申請の対象期間中(※1)に緊急事態宣言の対象区域又はまん延防止等重点措置を実施すべき区域であった地域(原則都道府県単位)に事業所のある企業については15,000円)

※1: 事業主の方から申請いただいた休暇日の最初の日から最後の日までの間(申請対象の労働者が複数いる場合は、休暇の開始が最も早い労働者の開始日から、終了が最も遅い労働者の終了日までの間)

申請期間

令和3年8月1日～同年10月31日の休暇

令和3年12月27日(月) 必着

令和3年11月1日～同年12月31日の休暇

令和4年2月28日(月) 必着

※消印が申請期間内であっても、都道府県労働局への到達日が申請期限を超過していた場合は申請期間に申請したとは認められませんので、ご注意ください。

※雇用保険被保険者の方用と、雇用保険被保険者以外の方用の2種類の様式があります。

※事業所単位ではなく法人ごとの申請となります。

新型コロナ 休暇支援 検索



※詳細は厚生労働省のホームページをご覧ください。

ワンポイント 健康コラム

入浴時のリスクと健康効果

秋も終わりに近づき、冷え込む日が続いています。こんな時はお風呂に入って、体を温めたいものです。しかし入浴には思わぬ危険が潜んでいることをご存じでしょうか？

今回は冬場に多い入浴の事故について焦点をあててみます。

入浴関連の事故について

冬の入浴の事故で多いのは「**ヒートショック**」です。「ヒートショック」とは、暖かい部屋から寒い部屋へ移動することで急激な温度変化が生じ、血圧が上下に大きく変動。体に負担がかかる現象のことをいいます。



そして、もう一つ、特に注意していただきたいのは「**浴室内熱中症**」。

これは、長湯や高温での入浴により体があたたまることによって血管が広がり、血圧が低下して起きる体調不良です。原因としては、のぼせなどが関係しています。本人が気づかないうちに倒れてしまい、倒れているのが発見された時には溺死となっていることが多く、たいへん危険です。他に浴槽内でぼーっとし急に立ち上がろうとして、転倒する事故などもあります。



入浴事故を防ぐための6つのポイント

- ① 入浴前後の水分・ミネラルの補給。
- ② 脱衣所や浴室を暖め、温度差をなくす。
- ③ 入浴前は家族に声をかける。
- ④ 湯船に入る前にかけ湯をする。
- ⑤ お湯の温度は41度以下にする。
- ⑥ 10分を超える長湯は控える。



入浴の健康効果

入浴にはリスクがある一方で、正しく入れば健康効果が期待できます。1万4000人弱の高齢者を調査したところ、毎日湯船で入浴している人は3年後に要介護になるリスクが29%も低かったのです。その理由としては、入浴により血行が良くなった、リラックスしてうつ状態になることを防ぐなどの影響が認知機能の低下に繋がっているのではと推測されています。



正しい入浴で健康増進。寒い冬を乗り切りましょう!



経理マンが行く

アッステート

今年も残り少なくなり、気温もグッと下がり始め、加えて花粉の飛来でくしゃみをする回数も増えてきました。回数と言えば、最近Windowsのアップデートが多くないですか？

この間は、キーボード入力が一切出来なくなり、イライラしていたところ、いきなりのシャットダウン。その後お決まりの「しばらくお待ちください・・・」の文字と丸い輪的なものが中央でクルクルし始め、1時間ほど仕事が出来ませんでした。そして数時間前も更にアップデートされ、30分ほど何も出来ない状態に・・・なんとMicrosoftは、毎月第2火曜日(日本は時差の関係でその翌日の水曜日)に、Windowsと.NET Frameworkの新たなセキュリティ更新を含む「**累積更新プログラム**」をリリースしているそうです。これが頻繁アップデートのまず一つ。



ただ、Windows10は一部のユーザーからは「Windows10になってPCを買い替えることなく、Updateで更新していく。アプリケーション配布もストアから。」と、企業にとっては管理が楽になるサービスが追加されていく傾向があり、そのたびにPCを新しく導入しなくても良いと、コスト面を評価しています。確かに、携帯電話のiPhone等はアップデートすれば最新の状態が保たれています。ですが、携帯電話の場合は、こんなに頻繁ではないし、すぐにアップデートは終わるし、仕事に支障もない。でもパソコンは違います。仕事で使用しているのに、という事です。

一応、私はアップデートがされない時間帯を設定しているのですが、にも係らず、いきなりアップデートは困ります。Windows8では、設定でアップデートのタイミングが選べました。ですが、Windows10はアップデートを止めることが出来ません! しかも、「アクティブ時間を設定すれば自動的に再起動されることはありません。」と説明を受けたので設定していたのに・・・と思っていたら「パソコンをシャットダウンしている状態では再起動できず、アップデートを完了できません。アクティブ時間以外でスタンバイモード、スリープモードにしてWindowsアップデートを完了させる必要があります。」とありました。なるほど、パソコンをシャットダウンする時に「更新して再起動」「更新してシャットダウン」が出る場合は、選べますが(どちらにしても更新ですが)、出ないまま更新する時があるようです。

実はこのWindows10は「パソコンが使用中ではない」と判断すると自動的に更新してしまいます。ユーザーにしてみれば使用中という状況であっても、自動的に勝手に再起動することもあるので、注意が必要です。

とはいえ、必要なアップデートのようですから、しないわけにはいきませんよね。このアップデートの度に「また?」とか「ウソでしょ?」とか「マジか・・・」と、パソコン相手にぼやいている私。ここはやっぱり、改善していただきたいと思うのは私だけでしょうか・・・

